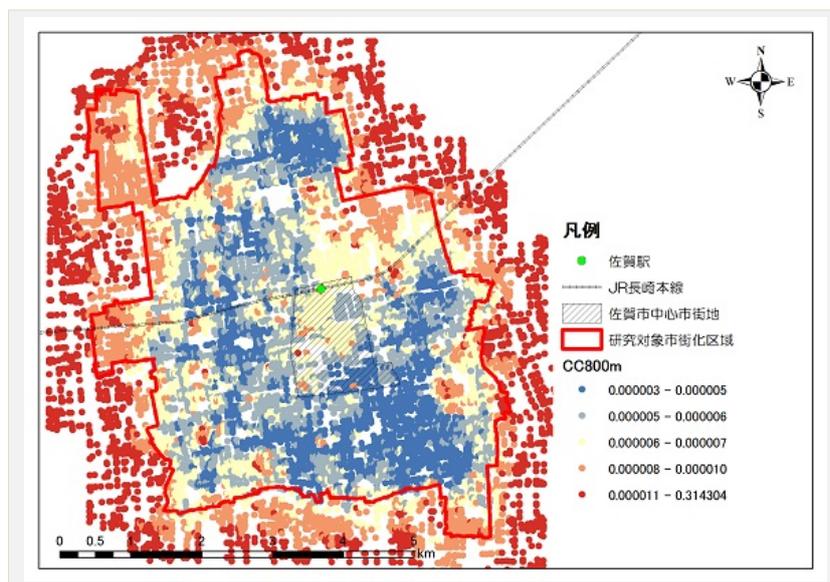


Teaching Portfolio

2023



第31回 佐賀大学 ティーチング・ポートフォリオ・ワークショップ
2023年9月13日(水)～15日(土)

佐賀大学 理工学部 都市工学部門
氏名 猪八重 拓郎
d3236@cc.saga-u.ac.jp

内容

1. 教育の責任	1
2. 教育の理念	3
3. 教育の方法	5
4. 教育の成果・評価	7
5. 教育改善	8
6. 今後の目標	9
7. 添付資料・参考資料	10

1. 教育の責任

佐賀大学では、国際的視野を有し、豊かな教養と深い専門知識を生かして社会で自立できる個人を育成するとともに、高度の学術的研究を行い、さらに、地域の知的拠点として、地域及び諸外国との文化、健康、社会、科学技術に関する連携交流を通して学術的、文化的貢献を果たすことにより、地域社会及び国際社会の発展に寄与することを目的としている（佐賀大学学則第1章第2条）（添付資料（1））。

また、理工学部都市工学部門では、都市基盤工学コースにおいては、幅広い教養と都市基盤工学分野の専門的な素養を持ち、安全・安心で豊かな地域社会の構築に貢献できる技術者として建設、運輸、電力、ガス、その他都市基盤に関連する社会の広い分野で活躍できる人材を養成すること（佐賀大学理工学部規則第1条の4（12））（添付資料（2））を目的として、建築環境デザインコースにおいては、幅広い教養と建築環境デザイン分野の専門的な素養を持ち、建築及びその周辺環境の空間のあり方を創造的に提示し、魅力的で豊かな地域の創生に貢献できる技術者として建築や都市計画などの社会の広い分野で活躍できる人材を養成すること（佐賀大学理工学部規則第1条の4（13））（添付資料（3））を目的として定めており、こうした目標を達成するための教育カリキュラムを提供している。

この2コースの中で私は両コースの共通専門分野の科目（都市計画、都市解析演習、都市工学ユニット演習）を担当している。都市計画は土木分野、建築分野の各専門分野を繋ぐ非常に重要な科目であり両コースの必修科目となっている。また、都市解析演習（選択）は、地理情報システム（GIS:Geographic Information System）を習得することを目的とした科目である。都市解析演習は都市を科学的に捉えるための科目であるとともに、土木・建築の様々な分野において応用・活用が可能な技術である。さらに、都市工学ユニット演習（選択必修）は、地理情報システムと統計解析を併せた分析手法を習得することを目的とした科目であり、より実践的な都市計画の技術者としての能力を養成する科目である。

この他にも、学部の専門科目として、「卒業研究」、「建設生産システム分析」、「建設プロジェクト演習」、「建設技術総合演習」、「理工概論」、大学院博士前期課程の専門科目として、「特別研究Ⅰ～Ⅳ」、「都市構成システム論」、大学院博士後期課程の専門科目として、「理工応用概論」を担当している。これらの科目の概略は表1のとおりである。

表 1：担当科目の概要

科目名	対象学年	種別	受講者数	キーワード
理工応用概論	博士後期	専門・必修・前期・後期	3～5名	オムニバス
特別研究 I～IV	博士前期	専門・必修・各学期	1～5名	GIS、統計解析、地方都市
都市構成システム論	博士前期	専門・選択・後期	10～15名	空間解析、都市形態
卒業研究	学部4年	専門・必修・通年	5～6名	GIS、統計解析、地方都市
都市工学ユニット演習	学部3年	専門・必修・後期	10～15名	都市解析、統計分析
建設プロジェクト演習	学部3年	専門・選択・後期	5～15名	PBL
都市解析演習	学部3年	専門・選択・前期	40～60名	GIS、都市解析
建設生産システム分析	学部2年	専門・選択・後期	60～80名	PART、施工管理
都市計画	学部2年	専門・必修・前期	80～100名	法定都市計画制度
建設技術総合演習	学部2～4年	専門・選択・通年	70～80名	技術士、オムニバス
理工概論	学部1年	専門・必修・前期	500名	オムニバス

2. 教育の理念

私の教育の理念は、「社会に出た時に戦える専門的技術を持った技術者の育成」である。

理工学部理工学科都市工学部門（都市基盤工学コース、建築環境デザインコース）の主な就職先としては、公務員、建設コンサルタント、ゼネコン、建築設計事務所、建築設備、住宅メーカーなどが挙げられるが、土木・建築分野の専門領域は非常に広く、また細分化されている。そうした中で私は、都市計画に携わる技術者を育成したいと考えている。その中でも特に「①都市空間分析や統計分析等の科学的な分析手法を高度に扱える人材を育成すること」、「②多角的な視点から定量的に自分の意見を表現・説明できるような人材を育成すること」が重要であると考えている。

①都市空間分析や統計分析等の科学的な分析手法を高度に扱える人材を育成すること

技術者（公務員や建設コンサルタント）として都市計画に携わる場合は特に科学的根拠に基づいて意思決定を行うことが重要であるため、都市空間分析や統計分析等の科学的な分析手法を高度に扱える人材を育成することが重要であると考えている。

実際に都市計画策定業務に携わる現場では、地理情報システムや統計的な分析は必要不可欠な技術であるが、十分に扱える技術者はまだ少ないのが現状であり、実際には経験則的に意思決定が行われる場合も少なくない。また、都市計画に限定したことではないが、「高度に地理情報システムを扱える人材の育成（地理空間情報活用推進基本法（添付資料（4））」や「データサイエンス力の高い人材の育成（科学技術イノベーション総合戦略（添付資料（5））」が社会的要請でもある。

地理情報システムは都市計画の分野のみならず様々な分野で応用可能な技術である。都市計画の分野以外でも、地理情報システムを高度に扱える人材を育成することは、社会の様々な問題解決に地理的アプローチが可能な人材を増やしていくことにつながると考えている。この重要性としては、1) 地球上で起こっている物事は全て“位置”という情報を有しており、「位置」という強力な接着剤を利用して異なる情報を整理・統合できること、2) データに隠された傾向や関連性などを可視化できること、3) データそのものの性質に加え位置関係からの情報の検索・分析が可能なこと、4) 大量の情報を視覚的に瞬時に誤解なく伝達・共有することができること、5) 多様なステークホルダーによる合理的な意思決定を支援することができることなどがあげられる。

また、統計的分析については、我が国では欧米等と比較し、データ分析のスキルを有する人材が極めて少ないことが指摘されているため、都市計画の分野に限らず統計的分析を高度に行える人材を育成することは重要であると考えている。統計的に物事にアプローチすることの重要性としては、1) 過去を振り返り、今を知り、未来を見通すための指標として、政策決定はもとより、事業者や国民の意思決定に幅広く利用され、まさ

に社会の発展を支える基礎であること、2) それを直接利用している政策担当者や研究者、事業者だけのものではなく、社会の基盤となる情報であり、すべての国民にとっての共有財産であること、3) 人口、経済、社会等に関しその集団の状態を客観的に把握することで、国や社会の姿を映し出す「鏡」となり、進むべき方向を示す「羅針盤」であること、4) マクロの視点に立って集団の状態を全体としてとらえるだけでなく、経済や社会の内部構造に迫り、そのメカニズムを解明する「内視鏡」であること、5) 実践的な意思決定に際しての基礎情報というだけでなく、学術研究においてマクロ・ミクロ両面から様々な分析に活用されることで真理の探究を支え、社会を一層豊かなものにすることに大きく貢献すること、6) 国際社会における相互理解や経済社会の各分野の開発の促進という観点からも不可欠な情報基盤であることなどがあげられる。

以上、地理情報システムや統計的分析という技術や視点を持った技術者を育成することは、現在起こっているもしくは将来起こり得る社会問題解決のための重要な役割を担う人材を育成することにもつながるものと考えている。

②多角的な視点から物事を捉え定量的に自分の意見を表現・説明できるような人材を育成すること

都市計画という専門分野は、一意の解のない分野である。実際に都市計画に携わる職種としては、公務員、建設コンサルタントなどが考えられるが、例えば公務員であれば限られた予算の中で費用対効果 (B/C) の高い計画を策定することが最優先事項である一方で、建設コンサルタントであれば企業である以上利益を上げなければならないという制約もあり、立場の違いにより優先すべき事項が異なってくる。またステークホルダーは一般市民、企業など多岐にわたるため、誰の視点に立つかによってもその解は異なる。さらに必ずしもステークホルダーの意向を最大限に反映すればよい計画が策定できるというわけではないため、長期的な視点と俯瞰的な視点に立って計画を策定していく能力も求められる。従って、将来的なステークホルダーを含めた様々な立場を想定して物事を考えられる能力、および自分の考えをきちんと整理して伝える能力が必要不可欠であるためそのような能力を涵養するように心がけている。また、単に定性的な意見ではなく、地理情報システムや統計分析など科学的な分析を基にした定量的で科学的な根拠に基づく意見を表現・説明できる人材を育成することが重要であると考えている。それは公共事業として行う都市計画に課せられた社会的説明責任を果たすということにもつながることであると考えている。

3. 教育の方法

- ① 「都市空間分析や統計分析等の科学的な分析手法を高度に扱える人材を育成すること」に対する教育の方法

まず、都市空間分析を習得させるために「都市解析演習」において地理情報システム（GIS: Geographic Information System）の基本的な概念と活用事例について講義している。そのうえで、具体的な解析手法を教授しながら実際に身近な都市や自分の興味のある都市について分析する課題を与えている。また、「都市工学ユニット演習」においては、基本的な多変量解析の手法について教授したうえで、都市空間分析の結果を用いて多変量解析により分析する手法を教授し、身近な都市や自分の興味のある都市について分析する課題を与えている。「都市解析演習」と「都市工学ユニット演習」を受講することで、土木・建築分野における基本的な都市解析手法および統計分析手法を身に付けることができる。また、卒業論文、修士論文では必ず地理情報システムを用いた分析と統計解析を行うことを義務付けており、テーマに応じてさらに応用的な解析が必要となるため、卒業論文、修士論文が完成するころには高度な都市空間分析と統計解析を行うことが可能な人材となるようにしている。（添付資料（6）（7））

また、地理情報システムに関しては「都市解析演習」ではフリーのソフト（QGIS）を使用することで、各自のパソコンにインストールすることができ、授業時間外でも個人で練習したり宿題で使えるようにしたりしている。また、「都市工学ユニット演習」では、さらに高度な都市解析が行えるようシェアソフト（ArcGIS）を用意して演習を行っている。ArcGISは都市計画業務で使用するソフトとしては最もシェアが高く、社会に出て即戦力として都市空間解析を行える技術者として活躍できるように育成している。また、卒業論文、修士論文に関しては、フリーソフトはもちろん、シェアソフトの地理情報システムおよび統計ソフトを一人一人使用できる環境を整えることで、都市空間解析や統計解析を自由な時間で行えるようにしている。

- ② 「多角的な視点から物事を捉え定量的に自分の意見を表現・説明できるような人材を育成すること」に対する教育の方法

「都市計画」では、第1回から第12回までは座学であり都市計画制度の基本的内容について講義している。その中で用いる配布資料において、特に地域（佐賀市）の事例（例えば土地区画整理事業の場合：兵庫北土地区画整理事業、市街地再開発事業の場合：エスプラッツなど）を引用することで実際に都市計画制度によって実現される市街地のイメージがどのようなものかの理解が進むように努めている。その際に、各ステークホ

ルダー（行政、市民、地権者、企業など）の意向から最終的になぜそのような計画になったかを解説することにより、多角的視点から物事を捉える必要性と合意形成の重要性及びその難しさを伝えるようにしている。また、最後の3回の講義をグループワークにし、5～6名にグループ分けしたうえで、まずKJ法により佐賀市の市街地における問題点を整理させる。さらにその問題が具体的にどこで生じているのかを地図上に整理させたうえで、その場所にとってどのような都市計画的な改善案が適応可能かを検討させている。最終的にはグループとしてレポートを提出させるため、問題点の抽出から改善案の作成までグループ内でのディスカッションと合意形成が必要となるようにしている。（添付資料（8））

また、卒業論文、修士論文では研究テーマをゼミの中で指導教員および他の学生とディスカッションしながら自分自身で決めさせるようにしている。この狙いとしては、一意の解のない都市計画という分野の研究において、指導教員の狭い見識の中で与えられたテーマで研究するよりも学生の自由な発想を最大限活かしたほうがより興味深い研究テーマを設定することができると考えているためである。しかしながらどのようなテーマでもよいというわけではなく、学術的にそのテーマに取り組む意義があるかを文献レビューから導き出し、ゼミにおいて理論的に説明できなければならないようにしている。また、研究テーマが決まれば、学部、修士の学生をテーマに近い学生同士でグループゼミを構成し、指導教員からの指導・助言はもちろんであるが、学生間でも普段からより活発に研究内容について教えあい議論しあえるようにしている。

さらに、学会発表（土木学会西部支部、日本建築学会九州支部など）や査読付き論文（日本都市計画学会、日本建築学会など）への投稿を促すことにより、研究室内部だけでなく学外の研究者・技術者とも研究テーマについて多角的に議論を深める機会を可能な限り確保できるようにしている。

4. 教育の成果・評価

①「都市空間分析や統計分析等の科学的な分析手法を高度に扱える人材を育成すること」に対する成果

都市空間解析や統計分析について高度な分析を行える人材になったと言える客観的なアウトプットとして挙げられるのは研究論文とその評価であると思われる。これまで卒業論文・修士論文・博士論文を指導した学生について、学生を第一著者とした査読付き論文（英文）6編、査読付き学術論文（和文）6編、査読付き国際会議8編、その他学会発表14件という成果が出ている。また、学生の学会賞受賞は5件となっている。（添付資料（9））

特に、以下に示す査読付き論文（和文）6編の第一著者の学生は全て博士前期課程の学生である。これらの論文は、卒業論文、修士論文の内容を投稿したものであるが、投稿先の日本建築学会計画系論文集や日本都市計画学会論文集は、都市計画分野における国内最高水準の論文誌であり、博士前期課程の学生が第一著者になっているものは非常に少なく、卒業論文や修士論文の時点で都市空間解析や統計分析等の科学的分析手法が高度に扱える人材が育成できた成果であるといえる。

B) 査読付き学術論文（和文）（^M：博士前期課程学生）

- B1 谷崎 竜也^M, 猪八重 拓郎：コンパクト・プラス・ネットワークと災害リスクとの関係性（その1）：立地適正化計画策定都市における現状及び計画の評価とシナリオ分析，日本建築学会計画系論文集 87(795) 887-897 2022年5月
- B2 牝小路諒^M, 猪八重拓郎：サイクリングルートของผู้一別満足要因の差異と道路環境の満足度モデル構築 —しまなみ海道メインルートを対象として—，日本都市計画学会都市計画論文集 56(3), pp.1077-1084, 2021年10月
- B3 谷崎竜也^M, 猪八重拓郎：コンパクト化のシナリオ別にみたアクセシビリティの評価 —熊本市を対象として—，日本都市計画学会都市計画論文集 55(3), pp.266-273, 2020年10月
- B4 牝小路諒^M, 猪八重拓郎：炭鉱都市の類型化と都市構造の時系列的変化 —福岡県の炭鉱都市を対象として—，日本都市計画学会都市計画論文集 55(3), pp.814-820, 2020年10月
- B5 野中健志郎^M, 猪八重拓郎：人口密度と縮小率に着目した線引き都市における居住誘導区域の指定に関する研究 - 住環境指標の視点から -，日本都市計画学会都市計画論文集 54(3) pp.457-463, 2019年10月
- B6 酒井莉奈^M, 猪八重拓郎：土地利用の変遷から見た都市化の実態と浸水想定区域の関係性の研究 —佐賀低平地を対象として—，日本都市計画学会都市計画論文集 51(3), pp.401-408, 2016年10月

なお、建設業においてはCPD（Continuing Professional Development）制度があり、この制度は技術者の技術力を保証するための継続教育を意味している。これは建設関係の資格認定団体が実施しており、資格取得後の継続的な教育プログラムや講習会等を提供している。なお、技術者が研鑽に要した時間を単位に変換しており、公共事業の入札の参加要件に組み込まれることが多い。論文執筆については、教育プログラムや講習会等の受講に比べ非常に高いCPDポイントが加算されることもあり、企業にとっても論文

執筆ができる能力を持った人材の確保は重要視されている。なお、先に上げた論文を第一著者として執筆した学生 14 名の内 9 名は建設コンサルタントに就職し、都市計画に携わる技術者として活躍している。

②「多角的な視点から物事を捉え定量的に自分の意見を表現・説明できるような人材を育成すること」に対する成果

多角的な視点から物事を捉え定量的に自分の意見を表現・説明できる人材として評価できるアウトプットとして挙げられるのは①の研究論文もその一つであると思われるが、都市計画分野の技術者（公務員、建設コンサルタント）には上記のような能力を持った人材が求められることから、指導学生の進路も評価できるアウトプットとして挙げられると思われる。

これまで指導し卒業・修了した学生（学部：34 名，修士：19 名，博士：2）のうち、現在大学院に在籍している学生を除き全員が就職，進学をしている。その内、公務員（土木系）：5 名、建設コンサルタント（計画系）：12 名を輩出している。

5. 教育の改善

①「都市空間分析や統計分析等の科学的な分析手法を高度に扱える人材を育成すること」に対する教育の改善

実際に業務の中でどのように都市空間分析や統計分析が行われているのかを知ることがこうした技術を習得しようとするモチベーションにつながると思われるため、研究室のOB/OGの技術者をゲストスピーカーとして招き講義やゼミにおいて実際の業務内容についてお話いただけるとより効果的であると思われる。また、特に既存の技術だけでなく最先端の解析技術や今後必要となってくるような技術の方向性など実社会の中で求められる技術のニーズについてもお話いただけると、学生が将来どのような技術者になりたいか、またそのために今どのような技術を身に付けておくべきかをより実感することができるのではないと思われる。さらに、海外の大学に勤めているOBを招聘して、どのような研究を行っているのかを紹介してもらうことにより、地理情報や統計データの整備状況が我が国と異なる国々において、国際的にどのような分析手法がスタンダードなのかを知ることができると共に、我が国の技術の先進的な面および後進的な面の両面について理解することができると思われる。

- ② 「多角的な視点から物事を捉え定量的に自分の意見を表現・説明できるような人材を育成すること」に対する教育の改善

「都市計画」や「都市解析演習」におけるグループワークにおいて特に役（ロール）を設定していないが、より多様な視点から考える能力を養うために学生に仮想の役（行政、企業、市民など）を設定し、それぞれの立場になって考えるというロールプレイングを導入すればより効果的であると考え。ただし、その役になりきるためにはそれぞれの立場を理解する必要があるため、講義の中で研究室のOB/OGの公務員や企業のゲストスピーカーを招いて実際の業務に関する考え方を話ししていただいたり、行政が行っている市民アンケートの結果の情報を提供したりすることによって、それぞれの立場でどのようなことを考えているのかを理解してもらうといったことが考えられる。また、グループワークにOB/OGが参加できるような仕組みができればなお好ましいと思われる。

6. 今後の目標

6. 1. 短期目標

担当科目については授業評価アンケートの回答者が余り多くないため、学生からの授業評価が十分には把握できない。まずは授業評価アンケートに回答してもらえるようにする。その上で、講義内容の改善を図っていきたい。

また、研究室に配属された学生については、全員が学会発表できているわけではないので、学部生については支部レベルの発表会で必ず1度は全員が発表できるようにしたい。修士の学生については、修士で1回は査読付き論文に全員が投稿できるようにしたい。

6. 2. 長期目標

現在、担当する講義においては全て自作の配布資料で行っているが、あまりよい教科書が見当たらないため「都市計画」と「都市解析」、「統計分析」が体系的に勉強できる教科書を執筆したい。また、国内外の企業・大学等と連携し、より実践的な講義や演習を行える体制を構築したい。

7. 添付資料・参考資料

- (1) 佐賀大学学則第 1 章第 2 条
(<https://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/gakusoku/gakusoku.htm>)
 - (2) 佐賀大学理工学部規則第 1 条の 4 (1 2)
(https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/browse.php?action_treeList&rule=331)
 - (3) 佐賀大学理工学部規則第 1 条の 4 (1 3)
(https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/browse.php?action_treeList&rule=331)
 - (4) 地理空間情報活用推進基本
(https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=419AC1000000063_20150801_0000000000000000)
 - (5) 科学技術イノベーション総合戦略
(<https://www8.cao.go.jp/cstp/sogosenryaku/index.html>)
 - (6) シラバス (都市解析演習 2023 年度)
 - (7) シラバス (都市工学ユニット演習 2023 年度)
 - (8) シラバス (都市計画 2023 年度)
 - (9) 指導した学生の学会発表と受賞一覧
- (9)
- (指導した学生の学会発表) (^D: 博士後期課程学生、^M: 博士前期課程学生、^B: 学部生)
- A) 査読付き学術論文 (英文)
- A1 *Wantana Prapaporn*^D, *Takuro Inohae*, *Patiphan Kaewwichian*, and *Somsiri Siewwuttanagul*: *Feeder Bus Reformation for an Urban Rail Project: The Case of Khon Kaen City, Thailand*, *Journal of Regional and City Planning*, Vol.33, no.2, pp.79-95, 20220530
- A2 *Prapaporn, W.*^D, *Inohae, T.*, *Kaewwichian, P.*, *Siewwuttanagul, S.*: *THE URBAN'S PERCEPTION INVESTIGATED BY MULTIMODAL TRANSPORTATION THROUGH URBAN RAIL (TRAM) PROJECT*, *Journal of Urban and Environmental Engineering (JUEE)*, Vol.16, n.1, 2022
- A3 *S. Siewwuttanagul*^D, *Y. Hayashida*, and *T. Inohae*: *IDENTIFYING PEDESTRIAN MOVEMENT BEHAVIOUR USING OBJECT DETECTION METHODS AND LAND-USE AGGLOMERATION ANALYSIS*, *ISPRS Ann. Photogramm. Remote Sens. Spatial Inf. Sci. Volume IV/W7 pp.123-128 2018.9*
- A4 *Somsiri Siewwuttanagul*^D, *Rungpansa Noichan*, *Bart Dewancker*, *Takuro Inohae*, *Nobuo Mishima*: *Identifying the Arrangement of Activities of Corridor Spaces in Transit Station*, *International Journal of Building, Urban, Interior and Landscape Technology* 10 pp.17-26, 2018.3
- A5 *Somusiri Siewwuttanagul*^D, *Takuro INOHAE*, *Nobuo Mishima*: *The Urban Development Dynamics: Simulating the Spatial Urban Gravitation in Fukuoka Urbanized Area, Japan*, *International Journal of Building, Urban, Interior and Landscape*, pp.5-12, 2016.12
- A6 *S. Siewwuttanagul*^D, *T. Inohae*, *N. Mishima*: *An Investigation of Urban Gravity to Develop a Better Understanding of the Urbanization Phenomenon Using Centrality Analysis on GIS Platform*, *Procedia Environmental Sciences* 36 191-198 2016.9

B) 査読付き学術論文 (和文)

- B1 谷崎 竜也^M, 猪八重 拓郎: コンパクト・プラス・ネットワークと災害リスクとの関係性 (その 1): 立地適正化計画策定都市における現状及び計画の評価とシナリオ分析, 日本建築学会計画系論文集 87(795) 887-897 2022 年 5 月
- B2 牝小路諒^M, 猪八重拓郎: サイクリングルートのユーザー別満足要因の差異と道路環境の満足度モデル構築 - しまなみ海道メインルートを対象として -, 日本都市計画学会都市計画論文集 56(3), pp.1077-1084, 2021 年 10 月
- B3 谷崎竜也^M, 猪八重拓郎: コンパクト化のシナリオ別にみたアクセシビリティの評価 - 熊本市を対象として -, 日本都市計画学会都市計画論文集 55(3), pp.266-273, 2020 年 10 月
- B4 牝小路諒^M, 猪八重拓郎: 炭鉱都市の類型化と都市構造の時系列的変化 - 福岡県の炭鉱都市を対象として -, 日本都市計画学会都市計画論文集 55(3), pp.814-820, 2020 年 10 月
- B5 野中健志郎^M, 猪八重拓郎: 人口密度と縮小率に着目した線引き都市における居住誘導区域の指定に関する研究 - 住環境指標の視点から -, 日本都市計画学会都市計画論文集 54(3) pp.457-463, 2019 年 10 月
- B6 酒井莉奈^M, 猪八重拓郎: 土地利用の変遷から見た都市化の実態と浸水想定区域の関係性の研究 - 佐賀低平地を対象として -, 日本都市計画学会都市計画論文集 51(3), pp.401-408, 2016 年 10 月

C) 査読付き国内外会議論文

- C1 Prapaporn, W.^D, Inohae, T.: *The Principle of Urban Rail Public Transport Development Project Represented by Accessibility Index, Modes of Transport, Scale Intensity, and Policies Trends. Fifth International Conference on Railway Technology Research, Development and Maintenance 2022. 22 – 25 August 2022, <https://doi.org/10.4203/ccc.1.23.10>*
- C2 Somsiri Siewwuttanagul^D, Takuro Inohae: *Spatio-temporal Retail Competition Factors Accessibility in Hakata Station, Japan, Urban Rail Transit, Proceedings of the 6th Thailand Rail Academic Symposium, pp.167-184, 2020.9, <https://doi.org/10.1007/978-981-15-5979-2>*
- C3 Somsiri Siewwuttanagul^D, Takuro Inohae, Nobuo Mishima: *Measuring the Changes of Subway Accessibility through the Service Area Territories: A Case Study of Fukuoka Subway Network, Urban Rail Transit, Proceedings of the 6th Thailand Rail Academic Symposium, pp.207-219, 2020.9, <https://doi.org/10.1007/978-981-15-5979-2>*
- C4 Kenshiro Nonaka^M, Takuro Inohae and Somsiri Siewwuttanagul^D: *STUDY ON CLASSIFICATION OF LOCATION NORMALIZATION PLAN, International Association of Lowland Technology, Proceedings of the International Symposium on Lowland Technology (ISLT 2018), 2018.9*
- C5 Somsiri Siewwuttanagul^D, Takuro Inohae and Nobuo Mishima: *EXAMINING THE LAND USE-TRANSPORTATION ACCESSIBILITY BY COMPARING BETWEENNESS CENTRALITY PARAMETERS, International Association of Lowland Technology, Proceedings of the International Symposium on Lowland Technology (ISLT 2018), 2018.9*
- C6 P. Glinsonpon^M, T. Inohae: *GEOGRAPHIC FACTORS AFFECTING TO REAR-END CRASH ON URBAN AREA, International Association of Lowland Technology, Proceedings of the International Symposium on Lowland Technology (ISLT 2016) pp.331-335, India, 2016.9*
- C7 S. Siewwuttanagul^M, T. Inohae and N. Mishima: *THE URBAN SPATIAL DEVELOPMENT POTENTIAL ASSESSMENT BY THE STUDY OF URBAN CENTRALITY ANALYSIS, International Association of Lowland Technology, Proceedings of the International Symposium on Lowland Technology (ISLT 2016) pp.379-384, India, 2016.9*
- C8 S. Siewwuttanagul^M, T. Inohae, N. Mishima: *An Analysis of Urban Configuration on Subway Station District for Urban Characteristics Classification, International Graduate Research Conference 2015(GRC2015), Thailand, 2015.12*

D) その他学会発表

- D1 今村薫^M, 猪八重拓郎: 財・サービスの商圏の重層性と人口増減の関係分析-佐賀市市街化区域を対象として-, 土木学会西部支部研究発表会講演概要集 557-558 2022 年 3 月 5 日
- D2 熊田直希^B, 牝小路諒^M, 清田勝, 猪八重拓郎: 高齢者による乱横断の欲求の定量的把握に関する研究, 土木学会西部支部研究発表会講演概要集 539-540 2022 年 3 月 5 日

- D3 谷崎竜也^M, 猪八重拓郎: コンパクト・プラス・ネットワークと災害リスクとの関係性-居住誘導区域の現状及び計画の評価とシナリオ分析-, 土木学会西部支部研究発表会講演概要集 527-528 2022年3月5日
- D4 牝小路諒^M, 猪八重拓郎: サイクルステーションの設備に関するユーザーの価値観分析 ~今治市サンライズ糸山を対象として~, 土木学会西部支部研究発表会講演概要集 505-506 2022年3月5日
- D5 牝小路諒^M, 猪八重拓郎: サイクリングコースのユーザー別満足要因の差異と走行環境の数値的モデル構築 ~しまなみ海道を対象として~, 土木学会西部支部研究発表会講演概要集 601-602 2021年3月
- D6 木村善己^M, 猪八重拓郎: 都市構造変化の定量分析と MCA を用いたアクセシビリティ評価の関係性, 土木学会西部支部研究発表会講演概要集 529-530 2021年3月
- D7 谷崎竜也^M, 猪八重拓郎: コンパクト・プラス・ネットワークと災害リスクとの関係性~立地適正化計画策定都市を対象として~, 土木学会西部支部研究発表会講演概要集 523-524 2021年3月
- D8 谷崎竜也^B, 猪八重拓郎: コンパクト化のシナリオ別にみた医療施設へのアクセシビリティの評価 ~熊本市をケーススタディとして~, 土木学会西部支部研究発表会講演概要集 585-586 2020年3月
- D9 木村善己^M, 猪八重拓郎: 市街地の変容の定量分析と MCA を用いたアクセシビリティ評価の関係性, 土木学会西部支部研究発表会講演概要集 583-584 2020年3月
- D10 牝小路諒^B, 猪八重拓郎: 炭鉱都市の類型化と都市構造の時系列的変化~福岡県の炭鉱都市を対象として~, 土木学会西部支部研究発表会講演概要集 479-480 2020年3月
- D11 畑田大樹^M, 猪八重拓郎: 佐賀広域消防局における救急車の最適配置について ~確定的評価指標を用いて~, 土木学会西部支部研究発表会講演概要集 601-602 2019年3月
- D12 木村善己^B, 猪八重拓郎: 施設へのアクセシビリティと世帯特性との関係性の分析, 土木学会西部支部研究発表会講演概要集 627-628 2019年3月
- D13 伴祥太郎^M, 猪八重拓郎: 区域区分制度に着目した土地利用と人口・産業集積の実態把握に関する研究, 土木学会西部支部研究発表会講演概要集 643-644 2019年3月
- D14 遠山貴史^M, 猪八重拓郎: 第一種低層住居専用地域における世帯の多様性と都市形態要素によるタイプ分類 -佐賀県下を対象として-, 日本建築学会九州支部報告 (57) 621-624 2018年3月

(指導した学生の学会賞)

- 2021年度土木学会西部支部研究発表会優秀講演賞 (修士学生)
- 2021年度年度日本都市計画学会九州支部支部長賞 (学部生)
- 2020年度年度日本都市計画学会九州支部支部長賞 (学部生)
- 2019年度年度日本都市計画学会九州支部支部長賞 (学部生)
- 2018年度土木学会西部支部研究発表会 優秀講演賞 (修士学生)